トーク企画

市長としゃべらんで

「ほのぼの工房」の皆さん × 原井 敬 市長

「市長としゃべらんで」第10回目の今回は、「ほのぼの工房」の皆さんとの対談が実現しましたので、その模様をお伝えします。

▲（上段左から）楮山信子さん、後藤由美子さん、原井市長　（下段左から）楮山悦子さん、川村里子さん

きっかけは薬草研究会

市長　まず最初に、ほのぼの工房さんの自己紹介、活動やきっかけも含めてざっくばらんに話を聞かせていただきたいと思います。

楮山（信）　まず平成19年に美郷薬草研究会というのができたんです。私と川村さんと楮山（悦）さんとは環境がよく似ていて、子育ても終わって、どうしようかなという時に、美郷の役に立てたらいいなと3人が薬草研究会に入りました。

　美郷の薬草とか、いろいろなことを勉強して、一番最初に製作したのがイタドリジュースです。イタドリジュースが体にいいという話を聞いたので、3人で率先して作ったんです。でも、そのイタドリジュースがやっぱり渋くて酸っぱいので、おちょこに1杯でも、ぐっと飲むのが難しい。毎日、摂取するにはどうしたらいいのか考えたところ、ゼリーにしたらいいんじゃないかということで、ゼリーにして食べてみたら美味しかったんです。

　それで、商工会の方が「ほな商品化して売ったらどうか」と。でも売るとなったら許可を取らないといけないので、「ほのぼの工房」を立ち上げて許可を取ったのが最初です。

市長　なるほど。それが平成19年の時だからもう10年以上ですね。

楮山（信）　今年の8月で丸15年ですね。

市長　ちょっとお話が外れるのですが、民宿は楮山（悦）さんと川村さんがそれぞれ営業をされていると思うのですが、その前後くらいで立ち上がった感じですか？

川村　（民宿が）1年くらい後です。

楮山（信）　薬草研究会で、大分の安心院（あじむ）へ視察に行きました。私たち3人は宿が同じで、そこの宿は自分たちの実家のような雰囲気で、「私たちも田舎（美郷）を生かした農家民宿を帰ったらしようよ」と言って、楮山（悦）さんと川村さんが立ち上げたんです。私は、お団子作りの方が忙しくなったので民宿はできなかったんです。薬草研究会で視察にいったおかげで始められたんです。

市長　なるほど。そこでいろいろ見てきて、ということですね。

楮山（信）　はい。これは自分家（くぐ）でもできるな、家を新しくせないかんとか間取りを新しくせないかんとか改装をせないかんとかいうのではなく、普通の農家の粗壁（あらかべ）の家の、失礼なんですけど、そんなに片付いてもいないような家の、ざっくばらんなおばあちゃんやおじいちゃんの家みたいな感じだったんです。

市長　農家民宿は徳島県で第1号ですもんね。

川村　第1号と第2号です。

市長　新型コロナウイルスの影響もあったと思いますが、現在は営業をされているんですか。

川村　今は休業中です。

市長　休業されているんですか。いろいろと美郷の食材をふんだんに生かした料理も提供されていたと思いますけど、予約が入ればみたいな感じですか？

川村　今も問い合わせはあるんですけど、やっぱりコロナの状況が心配なのでお断りしています。この美郷で、もしものことがあったら大変なので。

市長　ここ2年以上、イベントも「梅酒まつり」もできないですね。最近になってイベントも開催できるようになり、8月には鳴島で花火大会をしたり、「阿波おどり」は、この2年ほど地元の連も練習ができていなくて開催できなかったのですが、「梅酒まつり」とか美郷の四季折々のイベントも含めて、少しずつ以前のように、当然、感染防止対策を講じながらですけど、戻ってきてくれたらと思っています。

お団子が主力商品！ ～美郷へ来てよ～

市長　現在は、お団子が主力商品ですか？

楮山（信）　そうですね。毎日お団子は作っています。今までならイベントが美郷でたくさんあったでしょ。そのときはみんなで協力して出店して、自分から持ち寄った物を売ったりしていたんですけど、それがここ2、3年全然ないのでこれからどうなっていくか、体力が続くのかちょっと心配はしています。

市長　イベントなどに合わせて作る量も変わりますよね？

楮山（信）　そうですね。全然違います。農家民宿の「きのこ」さんや「ととり」さんも椎茸を栽培しているので、椎茸や乾燥椎茸を売りに行ったり、みんなが集まって、そういうのもしていたんですけど、今はまったくないので、復活してくれた時についていけるかなと。1、2年休むと体力がなかなか。（笑）

市長　普段は楮山（信）さんの家に4人で集まってされているのですか？

楮山（信）　普段は、別々に作っています。

　シバザクラとかイベントがあるときには、集まって交代で売りに行ったりしていました。今は2人とも民宿をされているので、私は後藤さんとお団子とかを作っています。最初のうちは一緒に4人で立ち上げたんです。

市長　それでは、それぞれの箇所でいろいろと作りながら、大きな行事があったら集まるという感じですか。

楮山（信）　そうですね。皆で集まって、話をしながら交代で店番をしています。

市長　後藤さんもお家で作られているんですか？

後藤　いえ、楮山（信）さんの家へ行って作っています。

楮山（信）　お団子を作るのには場所の許可、菓子製造業の許可がいるのでね。昔はどこででも自分家で作って持って行ってたんですけどね。

市長　そうですよね。許可の問題がありますよね。今は「美郷物産館」で販売しているのと…。

楮山（信）　それと予約ですね。

市長　予約ですか。そのほかに置いているところはありますか？

楮山（信）　ないですね。美郷へ来てもらうために美郷からなるべく売り場を広げないように、美郷へ人を呼ぶために出してもらえるように、ということをモットーにしているんです。「ひまわり農産市」とかに持って行ってもいいんですけど、美郷へ来て買っていただくために持って行かないんです。美郷でイベントがあるときは出店して、美郷へ来て買っていただくようにしています。そうすると、お団子を買いに「美郷物産館」までは来てくれるでしょう。そうしたらまた他の物も売れますしね。

市長　なるほど。実際に美郷まで足を運んでいただくということは、重要なことですよね。

　それで、話は変わりますが、先だって県の方で表彰されたんですよね。

楮山（信）　はい。「とくしま集落再生表彰」をいただきました。

市長　これはエントリーをされて選ばれたのですか？それとも県の方から？

楮山（信）　写真と資料を私が提供して市職員の方に申請いただいて受賞しました。

大変だったこと

市長　次に「ほのぼの工房」さんが、活動をされる中で大変だったことを教えてください。

川村　コロナ禍で県などの補助金をいただくのに、いろんな手続きが大変だったんです。

市長　最近は、オンラインでインターネットでの手続きでなければ、受け付けができないこともありますからね。持続化給付金関係ですとか。

　ワクチン接種が進み、現在はイベントなど、いろいろと実施した方がいいんじゃないかという意見もありますよね。このあいだは「ほたるまつり」が中止になり残念でしたけれども、それでも大勢の方が来られていましたね。私も子どもを連れて2回ほど蛍を見に行きました。

楮山（信）　でも、やっぱり来た人が道を聞いたりするときには、何か食べられる場所はないかとか、食べれるものはないかと聞かれることが多かったんです。「ほたるまつり」をしていたら露店とかがあるでしょう。「うどん」とかを来たら食べれると思っていたけど、来てみたらなかったとかね。今は「美郷の湯」さんもありますけどね。

市長　「美郷の湯」さんを経営されているのは、もともと市外の方で、いろいろと食堂を経営されている方なんですけど、その方が今、美郷の湯を引き継いでやってくれていまして、ありがたいですね。

楮山（信）　ありがたいですね。やっぱりちょっとした会をするとなると、集まるところがないとね。

市長　現在は、食堂とお風呂の営業をしていますよね。落ち着いてきたら宿の方もやろうかという話も聞いています。ご夫婦で美郷に移住してくれているみたいです。

　話を戻しますが、やっぱり苦労した面といったらコロナの影響があるのでしょうか。

楮山（信）　インターネットでの手続きが全然できないので市役所に相談に行ったり、地域おこし協力隊の萬川さんに聞いたり、美郷支所の職員さんが「なんでも持ってきなよ。」と言ってくれるので、助けてもらいながら手続きをしています。ありがたいです。ああいう方がおいでてくれるので、美郷も助かっています。

市長　今、お話に出たように地域おこし協力隊の萬川くんがこちらに移り住んで